

ISHIN

医心

隔月刊
無料配布

2026.7

No. 112

多診療科連携で 血液と免疫の難病に挑む！

金沢医科大学 血液免疫内科学 教授

正木 康史

シリーズ 第3回 地域医療の変革者たち

公立松任石川中央病院 病院長

尾山 勝信

地域の笑顔と共に歩む。

医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院

副院長

理事長補佐

新藤 恵一郎/新藤 悠子

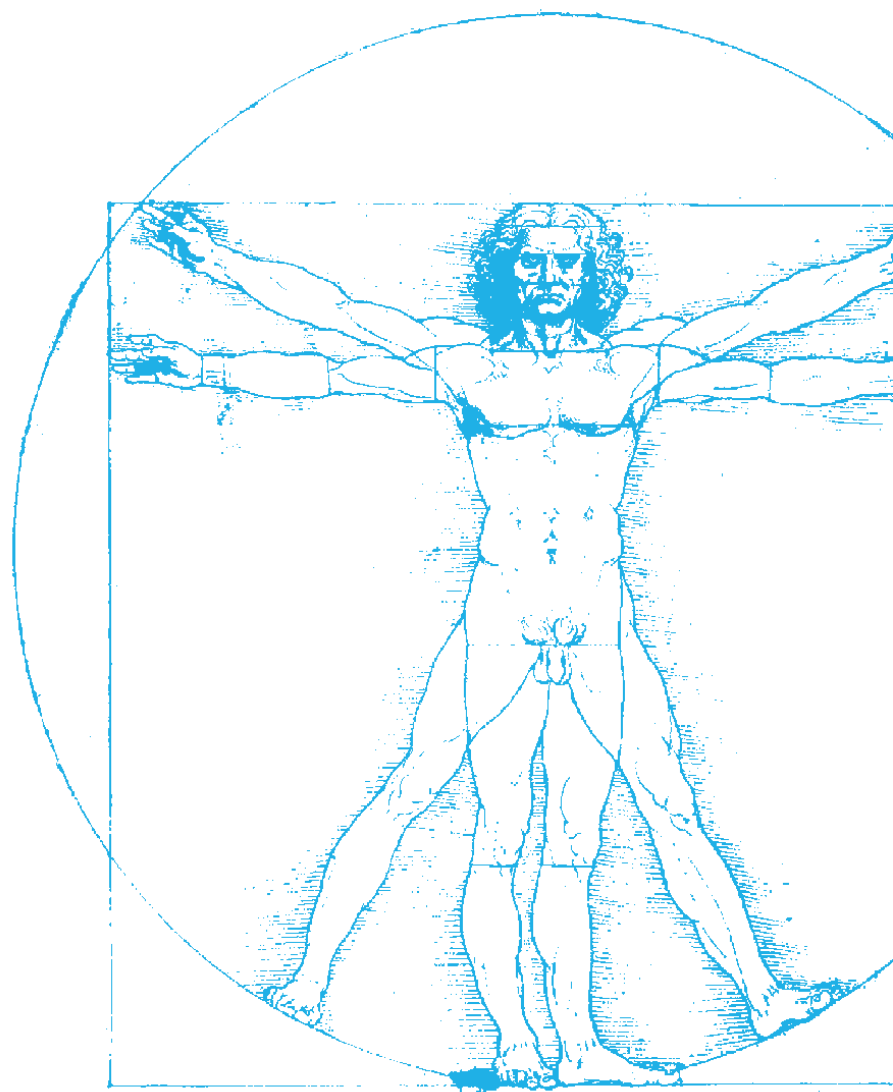
美しさが、日常を高める。

株式会社イーピーエム・グループ

代表取締役

代表取締役

北川 善貴/北川 善也



医療情報誌 医心

ISHIN

No.112 2026.7

CONTENTS



04 多診療科連携で
血液と免疫の難病に挑む！
金沢医科大学 血液免疫内科学 教授
正木 康史



12 シリーズ 第3回
地域医療の変革者たち
公立松任石川中央病院 病院長
尾山 勝信

19

ISHIN column vol.6
奇跡的に生まれ変わった野村病院
医療法人社団尽誠会 理事長
野村病院グループ CEO
野村 祐介

20

美しさが、日常を高める
株式会社イーピーエム・グループ
代表取締役 代表取締役
北川 善貴 北川 善也

24

ISHIN column vol.2
その人らしく生きるために ～音楽とアートによる心のケア～
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院
副院長 リハビリテーション科専門医
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院
理事長補佐 リハビリテーション科専門医
新藤 恵一郎 新藤 悠子

28

地域の笑顔と共に歩む。
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院
副院長 リハビリテーション科専門医
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院
理事長補佐 リハビリテーション科専門医
新藤 恵一郎 新藤 悠子



27

ファイネスのお聞かせください、ドクター！
DOCTOR'S VOICE
かいほつ眼科 院長
菊地 紀子

37

ISHIN column vol.3
医療DXで、本当に変えたいもの
日本医師事務作業補助者協会
理事長
矢口 智子

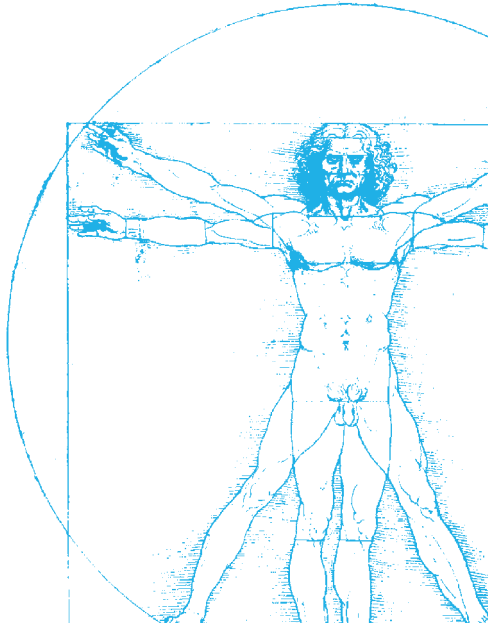
39

医心ニュース
「医療とDX、そして豊かな暮らしの融合」を
テーマに特別イベントを開催

STAFF

Publisher 羽田和政
Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／大廣 涼
Photographer 藤森祐治
Designer 吉田真人／西村恭子
Advisor 後山潤一／田中尚人

発行／NPO法人 学産 プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河端町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail:info@project-ishin.net



住まいは、居心地。

年間100棟限定



SIMPLE & RICH 大屋根スタイル



SIMPLE & RICH アーバンスタイル



SIMPLE & RICH グランドスタイル
～玉家の平屋～

職人たちの心意気を大切にしながら、すべての技と感性を発揮し、
お客様にお引き渡しのときに、心から満足していただき、
また、暮らしの中で安心して心地よく過ごしていただけるように
棟数を限定して責任ある住まいづくりを行っています。

家づくりは対話の積み重ね
玉家建設

本社・ギャラリー「響」／金沢市入江3丁目29 Tel:076-291-3411
富山支店・ギャラリー「響」／富山市布瀬町南2丁目7-1 Tel:076-491-6830



動画特設サイト

医療施設

クリニック

ドクター

薬剤師

看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

栄養士

介護士

ソーシャルワーカー

ケアマネジャー

民生委員

地域の方々

在宅高齢者施設

民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315 (代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1
TEL (076) 268-8311 (大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社 / 東京・名古屋
■支店 / 大阪
■営業所 / 富山・福井

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY

正木 康史

DOCTOR'S
INSIGHTS

治療薬の開発が進む

血液の疾患は、赤血球、白血球、血小板などの異常によって、日常的なものから専門的な治療が必要な悪性腫瘍まで幅広く存在する。血液の腫瘍で代表的なものといえば、白血球の一種、リンパ球ががん化する悪性リンパ腫、免疫にかかわる形質細胞ががん化する多発性骨髄腫、骨髄で異常な白血球が無制限に増える白血病などが知られる。

一方、本来は体を守るはずの免疫が、誤って自分の体を攻撃してしまう病気が、自己免疫疾患だ。体全体の色々な臓器に支障をきたす自己免疫疾患は、免疫反応がどの臓器に現れるかによって様々な症状がある。

その中で、全身の血管や細胞同士をつなぐ組織に慢性的な炎症が起こる病気を総称して、膠原病と呼んでいる。膠原病は、手足の関節が腫れて変形する関節リウマチが最も患者数が多い。涙腺や唾液腺に症状が出て、目や口が激しく乾燥するシェーグレン病、皮膚、関節、腎臓など全身の様々な臓器に炎症が起こる全身性エリテマトーデス、皮膚や内臓の結合組織が硬くなってしまいう強皮症、皮膚が荒れたり筋肉痛や

多診療科連携で 血液と免疫の難病に挑む!

DEPARTMENT OF HEMATOLOGY AND IMMUNOLOGY

YASUFUMI MASAKI

筋力低下が起る皮膚筋炎なども、膠原病に含まれる。

血液と免疫、膠原病などが専門の正木康史教授は、最近の治療についてこう述べる。

「血液の腫瘍や膠原病は、ひと昔前まで診断はついていても、なかなか救命できないケースが多かったのです。ところが最近の新薬が次々と開発され、早期に診断や治療すれば、寛解といつてかなり症状が良く、健康な人と変わりないぐらいに元気に過ごせるようになってきています」

とくに血液のがんといわれる白血病や悪性リンパ腫は、メカニズムの解明や治療薬の開発が進んでいることから、正木教授は「患者さんには、諦めずに前向きに治療すれば良くなると話せるようになった」と打ち明ける。

関節リウマチが劇的に改善

膠原病の分野でも、関節リウマチは生物学的製剤の出現によって大きく改善が見込めるようになってきた。

「自己免疫疾患は、主に免疫細胞から分泌される微量のタンパク質、サイトカインが関係しています。サイトカイン

ちらかといえば後天的な要因が関係しているケースが多い。とくに関節リウマチの増悪要因で明らかなのは、喫煙と歯周病だといわれています。それゆえ重症化する前に、生活習慣を見直すことで改善できる余地もあるのです」

全身性エリテマトーデスのように日光を浴びると症状が悪化する場合は、できるだけ直射日光を避ける。指先の血管が痙攣して血流が悪くなり、指先が白くなる強皮症は、ケガや火傷をすると治りが悪くなったり、深爪をするなど雑菌が入るので「生活習慣に気を付けることで、少なくとも悪化の妨げになる」のだ。シェーグレン病についても、「口の中を清潔にする、食事の都度、歯を磨くことが治療の第一歩」だと、正木教授は強調する。

北陸初、多診療科横断型のリウマチセンター

自己免疫疾患や膠原病は、免疫の反応が体のどの臓器に支障をきたすかによって、様々な診療科が治療にかかわる。たとえばシェーグレン病は、目や口が乾燥して炎症や雑菌が増えることから内科と眼科、歯科口腔科が連携し



は、細胞同士の情報伝達物質として働き、免疫反応の調整や炎症のコントロール、細胞の増殖などを指揮する役割を担っています。このサイトカインが過剰に働いて病気を引き起こすわけですが、疾患によって活躍するサイトカインはある程度決まっています。たとえば関節リウマチは、インターロイキン-6とTNF- α という炎症性サイトカインが悪さをしています。そこで、それらをブロックする抗体製剤が開発され、この生物学的製剤の登場で関節リウマチが劇的に改善したといわれています」

同様に、シェーグレン病においても、ひと昔前までは「根治薬はない」といわれ、対症療法が主体だった。しかし正木教授は「ようやく根治薬が出てきて、市販薬として使えるようになっており、数年ぐらいうすれば一般的に使用できるところまできている」と予測する。

膠原病は、はっきりとした原因はわからないまでも「生活習慣など後天的な要素が関係していることが多い」とも指摘する。

「遺伝的な要素も多少、関係はしますがそれだけでは説明が付きません。むしろホルモン、紫外線、放射線、ウイルス感染、喫煙、加齢、薬物など、ど

て診療にあたる。

強皮症や皮膚筋炎は、内科と皮膚科、全身性エリテマトーデスのように腎臓に症状が現れる場合は、血液・リウマチ膠原病科と腎臓内科、肺などに問題が起されば、同じく血液・リウマチ膠原病科と呼吸器内科というように、複数の診療科が連携して診療にあたる。

「金沢医科大学は、開学以来、血液内科と免疫・膠原病が同じ教室で、伝統的に一緒に研究してきました。血液と免疫・膠原病が同じ教室という大学は、全国でもおそらく稀ではないかと思います。血液の疾患や自己免疫疾患は、血液を含めて全身の諸臓器に病気が起きるので、私たちは1回の外来受診で、できるだけ複数の診療科を効率的に受診できるのが、よりの確な診療につながると考えています。それゆえ、血液・リウマチ膠原病科が主導して各診療科とスムーズな連携に取り組めるのが、私たちの最大の強みともいえます」

正木教授のそんな思いが結実したのが、2025年8月1日に開設した金沢医科大学病院リウマチセンターだ。関節リウマチや膠原病、自己免疫疾患などの早期診断・早期治療を目的に、関連する複数の診療科が協力して診療

にあたる専門拠点として開設された。北陸で初となる診療科横断型のセンターで、その最大の特徴は、各診療科が緊密に連携する診療体制にある。

血液・リウマチ膠原病科、整形外科、リハビリテーション医学科を軸に、腎臓内科、呼吸器内科、皮膚科、眼科、歯科口腔科など院内の約15科以上が連携し、診療にあたっている。

「患者さんは、1回の受診で多方面の専門診療を受けられるので、負担が軽減できて効率的に診療科を回れる利点があります。各診療科では、定期的にカンファレンスを行い、それぞれ専門家が意見を出し合い、適切な診断につながるように連携しています。もう一つの特徴は、地域連携です。能登のように専門医が少ない地域では診断が難しいので、大学病院で検査をして、日常の診療は能登で受けられるように地域の医療機関との病診連携を強化し、適切な診断・治療が実施できるようにしました。さらに専門医、看護師、理学・作業療法士、薬剤師など、リウマチや膠原病を専門とした教育や人材育成にも取り組める体制になっています」

てやっと診断がついたのです。全身の毛細血管の中に腫瘍が広がって、どんどん悪化していきます。基本的には悪性リンパ腫なので診断がつけば治療は可能なのですが、診断がつかないと何をしようのかかわからず後手に回ってしまいます。この病気も多診療科が連携して迅速に対応できるかどうか、院内の体制が重要だと思います」

病態解明や迅速な検査、診断、治療体制が患者の命運を左右する。まさに、リウマチセンターの多診療科連携による包括的診療体制が、大きな強みだといえよう。

「発見のための検査や診断はもちろん、治療法や病気の理解を進めていくためにも地域との連携が重要です。医療者向けには、地域連携の会をつくり年間通して定期的に顔の見える関係を築きながら、啓蒙していくことが大事になります。患者さん向けには、市民公開講座を定期的に開いて、自己免疫疾患や膠原病などの病気について知っていただくようにしています」

リウマチセンターを拠点に、血液の悪性腫瘍や自己免疫疾患などの難病に立ち向かう。正木教授の挑戦は、まずまず拍車が掛かっている。

原因不明の免疫疾患に挑む

自己免疫疾患は、全身の臓器に病気が起きることから、単独の診療科ではどうしても見落としが出てしまう。比較的新しいとされているIgG4関連疾患や、TAFRO症候群などは、「まず単独の診療科では成立しない」と、正木教授はその診断や見極めの難しさを語る。

IgG4関連疾患は、血液中の免疫グロブリンG4という抗体成分が上昇し、全身の様々な臓器が腫れたり、硬くなったりする原因不明の免疫疾患とされる。2001年に日本から発信・確立された新しい疾患で、ひとつの臓器だけでなく、複数の臓器が腫れる特徴がある。臓器にしこりができることから、がんと誤認されて手術で切除されたケース

も過去には見られたそうだ。

2010年に報告されたTAFRO症候群も同じく新しい全身性の疾患だ。血小板が減少し、全身の浮腫み、腎機能障害、発熱、骨髄の線維化などを主症状とする原因不明の全身性炎症性疾患とされている。TAFROは、Thrombocytopenia（血小板減少症）、Anasarca（全身の浮腫）、Fever（発熱）、全身の炎症）、Reticulin fibrosis / Renal dysfunction（骨髄の細網線維化、または腎機能障害）、Organomegaly（脾臓や肝臓の腫大、リンパ節の腫れ）の頭文字。「比較的新しい疾患なので治療法の歴史も浅く、残念ながら保険が使える治療薬はまだありません。悪性リンパ腫などのジャンルで使う抗がん剤や、免疫抑制剤など色々な薬が試されていて、それなりに有効例も出てきていま

すが、そもそもこの病気が腫瘍なのか、感染症なのか、それとも免疫の異常なのか、まだ根本的なことがわかっていないのが現状です」

センター機能が患者の命運を左右

血液内科の専門として正木教授が近年、力を注いできた悪性リンパ腫の治療でも、極めて稀な症例に出くわすことがある。それが「血管内リンパ腫」で、当初は高齢者が不明熱で多臓器不全の状態で診察したのがきっかけだった。

「悪性リンパ腫にも色々なタイプがあって、リンパ節が腫れるとか、リンパ節以外の様々な臓器が腫れる場合が多いのですが、この病気はどこにも腫れないリンパ腫で、かつては病理解剖し

Profile

正木 康史（まさき やすふみ）

金沢医科大学 血液免疫内科学 教授

- 1989年 金沢医科大学医学部 卒業
金沢医科大学病院 研修医
- 1991年 金沢医科大学血液免疫内科学 助手
- 1995年 米国スクリップス研究所免疫学Dr.Burton DR
研究室へ留学 (Visiting scientist)
- 1999年 金沢医科大学血液免疫内科学 講師
- 2007年 金沢医科大学血液免疫制御学 (血液免疫内科学)
臨床准教授
- 2015年 金沢医科大学血液免疫内科学 教授 (講座主任)
(現在に至る)

私たちの暮らしも、それを取りまく環境も。いま、社会はかつてない速さで変化しています。社会が変われば、銀行に求められる役割も、必要とされる機能も便利さも、変わるはず。だから北國銀行は、地域の「これから」を見すえて次々と新しいことに挑戦し、変化を続けてきました。それでも、ただひとつ、ずっと変わらないもの。それは、地域のお客様ひとりひとりを想い、ともに豊かな未来へ歩んでいきたいという願いです。あなたが未来を想うとき、誰よりもあなたを想う銀行でありたい。北國銀行はこれからも、あなたと同じ未来を目指すパートナーであり続けたいと考えています。

未来を想う、
あなたを想う。

北國銀行

北國銀行の取り組み
「想う」って、なんだろう？

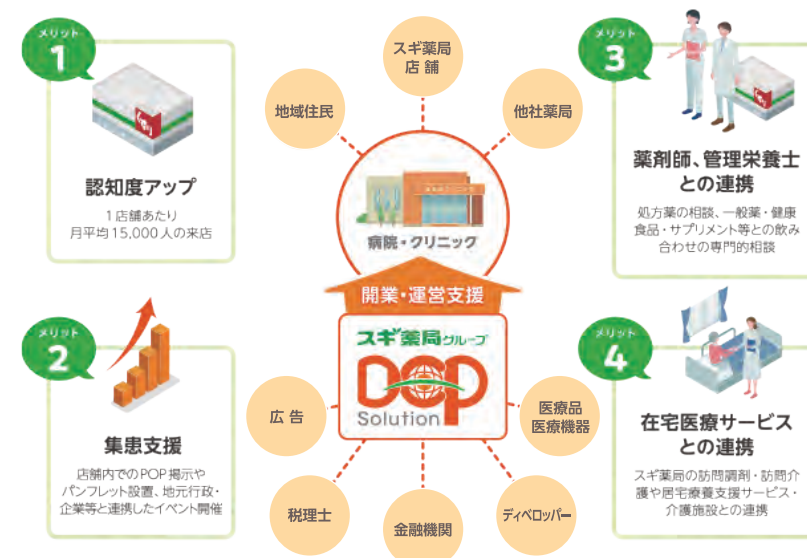


DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



スギ薬局グループ

0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠 点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ヒルトップ神田ビル
中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドイビル13階
北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

急性期病院に特化し、救急と先進的医療で進化をつづける

シリーズ 第3回 地域医療の変革者たち

公立松任石川中央病院

医療界は、2040年に向けて大きな変革を迫られている。
全国的に高齢者人口がピークを迎え、医療従事者不足、病床改革、
機能分化が進む中、地域医療を守っていくにはどうしたらいいか？
いち早く急性期病院に特化した公立松任石川中央病院の今を探った。

― 病院の機能分化が進む ―

今、地域の急性期病院では「救急」搬送の受け入れ件数が増えている。背景には、高齢者人口の増加により、脳や心臓などの急性疾患や重症疾患で救急搬送されるケースが多いことが理由の一つに挙げられている。しかし一方で、2026年度の診療報酬の改定で「急性期医療と慢性期医療の明確な機能分化が急速に進んだことが影響している」と指摘する声は少なくない。

公立松任石川中央病院（以下、松任中央病院）の尾山勝信病院長もその一人だ。「診療報酬の改定で」急性期病院は、救急搬送件数や全身麻酔件数などの実績が、より厳格に評価されるようになりました。急性期病院を標榜していても、新しい基準を満たしていないと急性期病院とは認められないと判断されるようになったのです」

地域の急性期病院の中には、これまで慢性期病棟やケアミックス型の地域包括ケア病棟などを併用しているケースが少なからず見られた。そ

れが今回の改定で、急性期病院一般入院料が新設され、救急搬送と全身麻酔の実績が求められると同時に、一つの病院で複数の異なる病床が混在している場合に制限がかけられたのだ。

すなわち、急性期病院が同一の病院に療養病棟や地域包括ケア病棟を併用しているときは、その届出を認めないこととされた。尾山病院長が続ける。

「複数の異なる病棟があると、それぞれの病棟に合わせた人員配置が必要となり、業務効率が低下します。病院の機能を『急性期』または『慢性期』に完全に分けることで、それぞれの医療現場にあった多職種の人員を集約的に配置し、より効率的に生産性を高められる。そういう方向に変わっていくことが求められているということです」

具体的には、今後、急性期病院を標榜する病院は「年間救急搬送二千人以上で、年間全身麻酔千二百件以上」という高いハードルが必須要件として設けられた。その結果、地域の急性期病院は、年間救急搬送を増

公立松任石川中央病院 病院長

尾山 勝信

やすなど、急性期医療や高度な医療を広く提供する方向へと変わってきているのだ。

いち早く急性期病院に特化し、体制を整える方向に舵を切った松任中央病院では、現在、年間四千台の救急搬送を受け入れている。尾山病院長は「今回の診療報酬改定によって、あなたの病院は地域の中で救急や手術を積極的に受け入れる急性期病院として生き残るのか、それとも患者さんをつくり支える包括期、慢性期の病院として地域に貢献していくのかの決断を迫られたのと同じ」と打ち明ける。

2027年4月、新病棟が稼働

国がこうした動きを強めた背景には、2040年問題を見据えた地域医療構想の推進がある。今後、現役世代の人口が減り、2040年には高齢者人口がピークを迎える中、限られた医療資源で体制を維持していくのは極めて難しくなっている。ベッド数や人員配置という量的な基準だけではなく、病院そのものが地域で果たすべき役割を考えたとき、機能を集約化、効率化しな

ました。白山、野々市、川北を中心とした医療圏約20万人の急性期医療を担当できる体制が整ったと考えています。救急車出動の約6割をカバーし、救急外来の人員補強として看護師や、臨床工学技士、臨床検査技師など多職種によるチーム編成で、タスクシェアを図って効率的な運営をめざしています」

医療業界で今後、最も懸念されるのは、少子高齢化や人口減少による医療従事者の不足だ。とくに看護師や若手医師の確保が、各病院で難しくなっている。その中で、ポイントになっているのが多職種協働による「チーム医療」の推進だ。尾山病院長が重要視するのもまさにこの点で、松任中央病院では今、多職種によるタスクシェアを進めている。

「当院は、幸いにして職員数は今のところ充足しています。ただ今後、タスクシェアは各部門間で進めなければなりません。そのときに大切なのは、一人ひとりの意識改革だと思っています。たとえば、患者さんが造影剤を使ってCTを取るときに看護師が注射をするのですが、この行為は診療放射線技師にも認められています。看護師が対応できるタイミングですが、できないとき



いと経営はもちろん、急増する患者の治療や生活支援も立ち行かなくなってしまう。

それゆえ松任中央病院や、つるぎ病院の運営母体である白山石川医療企業団は、超高齢化社会を背景とした社会情勢、医療情勢にいち早く対応できる体制づくりを進めてきた。すなわち、松任中央病院は急性期に特化し、つるぎ病院は包括期機能に特化した病院として、高齢者救急の受け皿や地域への復帰をめざす、あるいは在宅医療を提供し、地域の生活を支える機能へとシフトすることで体制を整えることにしたのだ。結果、松任中央病院はどう変わったか？

「急性期病院に特化することで、まず救急医療などの急性期の医療をより幅広く提供する体制にしました。具体的には、2027年4月から稼働する新病院に、同じ企業団のつるぎ病院の急性期病床45床を移管します。これにより、急性期に特化した病床が320床になります。高度な医療や救急対応についても拡大し、消化器内科、呼吸器内科、外科がそれぞれ1名ずつ、研修医も1名増員し計4名の医師を増やし

に診療放射線技師が代行できる体制を整えています。看護師は患者さんに寄り添い、他のスタッフが代行できる業務は任せて、本来業務に集中するのが基本です。スタッフ間で情報共有を徹底し、改善しないと人材確保は難しくなると思っています」

高度先進医療がさらに充実

急性期病院に特化したことで、救急や先進的な医療についてはどのように変わったか？ 消化器外科が専門である尾山病院長は、「救急を積極的に受け入れることによって患者さんが増え、専門的な治療が必要になっている」と、救急との相乗効果を訴える。とくに尾山病院長が強調するのは「緊急性の高い疾患だけではなく、一般的な入院治療に関しても専門的かつ当院で完結できる治療体制が整っている」ことを挙げる。

とくに、松任中央病院の医療の質の向上に貢献しているのが、次世代CTだ。フォトン・カウンティングCT（以下、PCCCT）という高度先進医療機器である。石川県内はもとより「日本全国でも、おそらく24台しか導入事例

がないのでは？」（尾山病院長）という新しい機器で、2024年9月に導入以来、診断能力や治療能力ともに格段に進化している。

短時間で、高精密な画像を撮影できるのが特徴で、尾山病院長は「通常のCTで発見が難しいとされる膵臓がんの早期発見に役立っている」と自信を示す。がん治療については、国産の最新鋭「OXRAY」（画像誘導型高精度X線治療装置）を、日本海側で初めて導入したことも大きい。がんの放射線治療に使われる大型の医療機器で、2023年11月に保険適用されている。

これにより、がん診療においてはPCCCTによる診断から治療（ロボット、OXRAY、放射線内射）などすべて最新機器を揃えて対応できる環境が整った。

このPCCCTの機能を最大限に活かし、医療連携にも力を入れている。その一つが、金沢大学附属病院に設置された革新的膵がん医療研究開発センターとの連携による、新しい膵がん診断法の開発だ。金沢大学附属病院を受診した患者は、原則として松任中央病院でPCCCTによる検査を受け、その

療や緊急の止血をするものですが、いずれにしてもこうした高度で先進性の高い診断、治療が行える体制が整ったことで、当院ではほとんどの急性期疾患の診療を完結できるようになっています」

医療圏人口約20万人ともいわれる地域を支える中核病院として、尾山病院長がめざす完結型病院への体制は、ほぼ固まりつつある。

急性期医療の強化と予防事業

松任中央病院は、来年4月には新棟が稼働する予定だ。これにより、医療圏内の急性期から包括期、在宅を含めた地域訪問型診療まで、白山石川医療企業団でカバーし、完結できる体制が整うことになる。

急性期病院への特化、電子カルテの統一、DX化の促進、AI導入による業務の効率化、いしかわ診療情報共有ネットワークや高度先進医療機器の導入など、松任中央病院は新しい方針をいち早く打ち出し、取り入れてきた。院内においては、「働きやすい病院」をめざしてタスクシフト、タスクシェアを進めている。さらには、地域の中核



撮影データを両方の病院で共有し、双方の放射線科医が協力して読影、診断し、治療方針を確定する形式で進められている。

PCCCTは、循環器内科でも活躍しており、尾山病院長によると「心筋梗塞や狭心症の原因となる狭窄を、より正確に捉えることができる」そうだ。ちなみに松任中央病院は、循環器疾患については「24時間心臓カテーテル治療が可能な体制」を敷いている。心カテ治療は北信越でもトップクラスの実績を上げており、すこぶる高い専門性を誇る。金沢大学附属病院と協力して「白山南加賀ハートセンター」を運営するなど、金沢市内の基幹病院と遜色ない診療レベルを維持しているのも大きな強みといえよう。

「急性期病院として質の高い医療が提供できるのは、白山石川医療企業団という運営母体と、安定した経営に支えられていることにあります。PCCCT以外にも、アズリオン7という全身用血管造影X線装置を2025年7月に導入しています。カテーテル治療を行う際に用いる装置で、造影剤を注入しながら血管の様子を映し出し、がん治

病院として予防医療にも注力しており、健康寿命延伸事業として白山市と認知症予防や生活習慣病対策、がん検診の拡大などにも積極的に取り組んでいる。この先どんなビジョンを描いているか、尾山病院長に尋ねた。

「来年4月から、急性期病床数を増やせるので患者さんをより多く受け入れられますし、つぎ病院の急性期を担っていたスタッフも一緒に当院に移動します。私としてはその状態に見合った機能をすべて強化していきたいと考えています。今、国は認知症予防の診断、治療に力を入れ始めています。当院でも、地元白山市と連携して認知症予防の検査などを始めていますが、自前のPET施設もありますので、がんや生活習慣病だけではなく、今後は認知症予防の検査、診断など予防事業にも力をいれていきたいと思っています」

企業団全体、周辺の医療施設、介護施設との連携、高度な医療や救急への対応など、松任中央病院はさらに圏域を拡大しながら、進化し続けている。

（次回へ続く）

奇跡的に生まれ変わった野村病院

～危機から脱却し慢性期医療の新たなモデルを築く軌跡～

地域と医療従事者に選ばれる挑戦

全国の病院が経営に苦しむ中、かつては野村病院も極めて厳しい状況にあったのは間違いない。しかし、3つのステップからなる改革を進めた結果、病院は奇跡的とも言える再生を遂げた。現在では「地域から、そして医療従事者に選ばれる病院」として、専門誌などから注目されるようになったのだ。

本連載は当院が危機から脱却し、選ばれる病院へと生まれ変わるまでの軌跡を振り返るものである。医療現場と経営の両面から見た「選ばれる病院」の条件と、今後の医療経営への示唆について考察する。



医療法人社団尽誠会 理事長
野村病院グループ CEO

野村 祐介

最終回…時代を先取りする 「選ばれる病院」への挑戦

これまで当院は、危機的状況からの再建を出発点として、基盤整備、慢性期病院としての体制改革を進め、「選ばれる病院」への進化に取り組んできた。

かつては、短期的な数値目標の達成に迫られ、中長期的なビジョンを職員全体で共有することが難しい状況にあった。しかし現在では、短期的な目標は日常的に共有されるようになり、「選ばれる病院づくり」を通じて、慢性期以降の患者・利用者の人生を支えるという中長期的な方向性も明確になりつつある。

また、医療・介護の質向上を目的とした病院改革と、働きやすい職場環境を目指した働き方改革を進めた結果、患者・利用者だけでなく、医療従事者からも選ばれる環境が形成されつつある。

看護師採用においては、従来の「プライベート重視」の層に加え、「キャリアとプライベートの両立」を求める新たな層からの応募も増加している。さらに、応募者の多くは当院ウェブサイトを各種メディアを通じて当院を知っており、近年では人材紹介会社を介さない直接応募が大半を占めるようになった。

患者についても、病院の活性化に伴い、患者・家族・地域医療機関からの認知が進み、紹介患者数は増加した。その結果、病床稼働率は従来の80%前後から大きく向上している。これらの変化は、当院が「選ばれる病院」へ近づいていることを示している。

しかし、「選ばれる病院」の基準は時代とともに変化する。そのため、将来の医療・社会環境の変化を見据えた継続的な挑戦が不可欠である。

2018年には、タブレット端末で操作可能なCT装置を導入した。この装置は、操作室と検査室を往復することなくCT検査を実施できるため、感染対策と業務効率化の両面で有用であった。実際に、コロナ禍においても大きな効果を発揮しており、将来的な感染症流行や業務負担増大への備えとしても意義のある取り組みであったといえる。

また、超高齢社会の進展に伴い、摂食嚥下障害への対応の重要性が高まることを見据え、2019年より内視鏡下嚥下機能検査導入に向けた摂食嚥下サポートチーム（SST）の体制強化を進めてきた。その結果、2022年度診療報酬改定において新設された摂食嚥下機能回復体制加算3は、当院が先行して構築してき

た体制の有効性を示すものとなった。さらに、摂食嚥下訓練や褥瘡対策における栄養管理の課題を背景として、当院では栄養サポートチーム（NST）の必要性を早期から認識し、2020年より本格的な立ち上げ準備を進めてきた。その後、NSTの運用体制を整備し、2024年からNST加算の算定を開始している。

同じく2024年度診療報酬改定では、療養病棟における経腸栄養管理体制を評価する経腸栄養管理加算が新設された。当院が継続して取り組んできた摂食嚥下支援、栄養管理、多職種連携は、制度改定の方向性とも一致しており、その意義がより明確になったと考えられる。

これらの取り組みはいずれも、現在のニーズに応えるだけでなく、未来を見据えた挑戦である。

私たちはこれからも、新たな医療課題や社会の変化に先んじて挑み続けたい。できない理由を探すのではなく、「どうすれば実現できるか」を考え続ける。その積み重ねの先にあるのは、時代が変わっても、地域から、そして医療従事者からも選ばれ、患者・利用者の人生を支え続ける病院である。

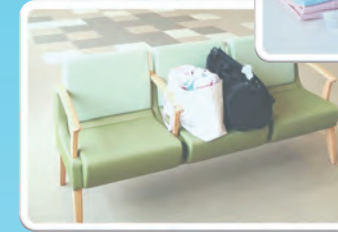
それこそが、当院の目指す姿である。

私たちは医療・介護のサポーターとして
全ての人のチカラになりたい。

私たちは誰からも信頼される
グッドカンパニーを目指します。

Amenity
Corporation

—— 人に、よりそう。人で、よりそう。 ——



株式会社アメニティ

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

03-6427-6780

03-6427-8210



<https://www.amenity-ss.co.jp/>

全国の事業所は HP の『事業所一覧』をご覧ください。





—凝縮されたブランド哲学—

シヨールームに足を踏み入れると、そこは別世界だった。2階まで吹き抜けた広く、ゆったりとした空間。広角に切り込んだ巨大な窓。高級輸入車のトップブランド・ポルシェが、まばゆい光りをあびて横たわる。なめらかなボディ、塗装の質感、美しくスタイリッシュな姿体。本物を知る人の品格を映すように、洗練された輝きを放っていた。

「クルマはもちろんですが、シヨールームも『売り』のひとつです。ポルシェのブランドコンセプトに則った設計で、高い天井や吹き抜け、窓の大きさまでメーカーから指定されています。クルマの美しさと、世界中で均一なブランド体験をしていただくためのステージになっています」

商談だけではなく、ブランドの哲学や世界観を体現する舞台の役割を担う。EPMグループの代表取締役北川善貴さんは、ポルシェとシヨールームの魅力をそう口にする。

実際に、商談スペースやラウンジから眺めると、クルマの見え方が劇的に変わる。外からの自然光と室内の照明

が調和すると、ポルシェのフォルムが最も美しく立体的に見えるよう、窓ガラスの面積や配置、天井の高さまで緻密に計算されているのだ。

—60年の信頼がブランド—

EPMグループでは、高級輸入車ブランド多く扱う。ポルシェと並ぶドイツの高級ブランド車で、高い走行性能とプレミアムな品質を両立するBMW、イギリスで誕生し、現在はドイツのBMWグループが展開する世界的なコンパクトカーMINI、富山県では پژォー、シトロエンなどフランスの高級車ブランドの正規ディーラーでもある。

EPMグループの顧客または潜在顧客は、単なるクルマ好きではない。人生観や美意識、挑戦心、上質なライフスタイルなど、自分の生き方や世界観をクルマに投影する。

「BMWは、自分で運転する喜びを感じるお客様が好まれます。BMWのローガンは『駆けぬける喜び』で、まさに走りのこだわりが特徴です。MINIは、丸目のヘッドライトやユニオンジャックなど英国伝統のデザインと

ファッション性、BMWの先進技術による走りの良さでしょうか。ブランドやブランドの価値を大切にするお客様が多いので、それぞれのニーズや目的に応じてご提案させていただいております」

そう語るのは、善貴さんの実弟で、EPMグループのもう一人の代表取締役である北川善也さんだ。2025年7月、会社創立60周年を迎えたのを機に、父親で現社長の北川善昭さんと、長男・善貴、次男・善也兄弟による代表3人制を採用、EPMグループの新体制がスタートした。

60年にわたってEPMグループが築き上げてきたのは、ひとえに「信頼」といい。国産車が全盛だった時代、輸入車の魅力やブランド価値を上げるために「日本一感動いっぱいの会社」を理念に掲げてきた。社員やその家族の幸せを叶えたい。お客様に、満足の先を行く感動を届けたい。そんな思いを実現するために、社員間のコミュニケーションを促し、いくつもの感動体験を提供してきた。

—ドクターの心をつかむ—

EPMグループの顧客は、富裕層や知識層が多く、なかにはドクターや看護師など医療関係者も少なくない。多忙な医療従事者と、普段どのように向き合っているのだろうか？

善貴さんは、EPMグループに入社する以前、政府系金融機関やベンチャーキャピタルなどに勤務、金融知識や経営分析などを学んだ。そうした経験で商談に生かしていきたいと考えている。

「先生方（ドクター）は、世界水準の医療、治療と向き合いつつ、集中力を極限まで高めて仕事をされています。そのせいかプライベートでは、走り心地、乗り心地、デザインの良さや自分で運転する喜びを追求される人が多いですね。ポルシェやBMWなどのブランドには、そうした先生方の美学や挑戦心に通ずるところがあるように感じます。クルマを選ぶにあたって情報やデータに興味を示す人もおられます。どんな人が、なぜポルシェやBMWを選ぶのか、どんなところが気に入っているか、国産車からの乗り替えはどんなクルマが多いのかなど。そうした情

PORSCHE



お気軽にご試乗いただけます。詳しくはショールームまで。

アンケートにお答えいただいた方に
ポルシェセンター金沢オリジナル ティーペア*をプレゼントいたします。
アンケートは左の二次元コードからアクセスください。

*アンケートにご入力いただいたご住所へ送らせていただきます。



ポルシェ正規販売店

ポルシェセンター金沢

ワタヤ自動車株式会社

石川県野々市市二日市2丁目146番地

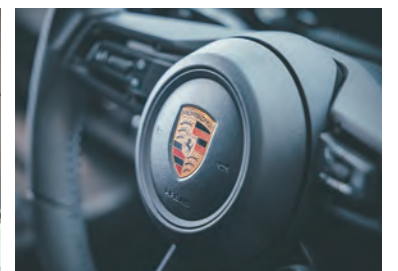
TEL:076-294-0911



EPM GROUP

& ISHIN

KANJIRU
&
EPM



左上) 代表取締役 北川 善貴 右下) 代表取締役 北川 善也

株式会社イーピーエム・グループ

石川県白山市田中町176-1

報・データ分析を今後、強みとして生かしていきたいと考えています」

一方、善也さんは、対照的に営業や人事、経理、整備などで経験を積んできた。2024年に自ら「人事部」を立ち上げ、社員の採用・教育に力を入れたと考えている。

「高級輸入車のブランドやコンセプトを、新規のお客様にどのように伝えていくか。それはEPMグループが、これまで築いてきたブランドや信頼をどうやってお客様に伝えていくかでもあります。そのためには、次の時代を担う若手社員への教育が大事になります。企業理念を次の世代に継承していくためにも、教育をしっかりとしていきたいと思っています」

世界基準の感動を届けたい。若き経営者たちの挑戦が、これから始まるう

その人らしく生きるために

～音楽とアートによる心のケア～

医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院



医療法人社団紫蘭会光ヶ丘病院：紫蘭会グループは、高岡市郊外に位置する光ヶ丘病院と新高岡駅近くの介護老人保健施設おおぞらの2箇所を拠点とし、地域一般・回復期リハビリ・医療療養・特殊疾患病棟、介護医療院に加え、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、健診・人間ドック事業などを展開している。

また、「ひかりプロジェクト」として、病院を病気の人だけの場所ではなく、子どもから高齢者まで、障がいの有無を問わず集い、つながることのできる居場所とし、多分野との連携を通じて地元高岡・富山を元気にする取り組みを行っている。

私が音楽療法やリハビリテーションの世界を知ったきっかけは、医学部時代に留学したニューヨークであった。その経験を通じて、医療に芸術を取り入れたいと考えるようになった。その後、デンマーク留学中には音と形のインテグレーション研究に関わり、音楽と神経科学の研究にも触れる機会を得た。そして富山に戻った2020年頃から、本格的に音楽療法やアート活動を法人に取り入れるようになった。

リハビリテーション医学とは、単に機能回復や歩行訓練を行うだけではない。その人が、その人らしく生きることとを支える医学である。ひかりプロジェクトも、この考え方を土台としている。

また、障がいが残った患者さんに対して、装具や住宅改修など生活環境を整えることはリハビリテーション医療の重要な役割であるが、その方が暮らす地域そのものが元氣であることも、その人らしい生活を支えることにつながる。私はリハビリテーション医学と地域創生は深く関係していると考えている。

当院では、その人らしい生活を支える「心のケア」の一環として、音楽・アート・農活動を取り入れている。これらに共通するのは、言葉だけに頼らないノンバーバル（非言語的）コミュニケーションであり、年齢や障がいの有無、立場を超えて誰もが参加できること、

実際に臨床美術へ誘うと、「絵が下手だから遠慮しておく」と言われることがよくある。しかし参加された方の多くは、「また参加したい」と笑顔で話される。セッションでは写生をするのではなく、実物に触れたり音を聴いたりしながらイメージを膨らませ、色を選び、点や線から作品づくりを始める。気がつくくと、それぞれの個性が表現された素敵な作品が完成している。

認知症が重度の方でも、作品を完成させた時の驚きや喜びは大きい。日常生活では自分で選択する機会が少ない方であっても、色や形を選ぶ、自ら表現することのできる貴重な時間となっている。作品を自宅へ持ち帰り、家族との会話のきっかけになることも多い。

最後には作品を並べて鑑賞会を行う。それぞれの作品の良いところを伝え合い、互いを認め合う時間である。参加者の笑顔や自信を取り戻していく姿を見るたびに、アートの持つ力を感じて



副院長
リハビリテーション科専門医
新藤 恵一郎



理事長補佐
リハビリテーション科専門医
一般社団法人ヒカリプロジェクト代表理事
新藤 悠子

そして、誰もが「今ここ」を楽しめることである。現代社会では、過去の出来事への後悔や未来への不安に心が向きがちである。しかし、音楽を奏でるとき、絵を描くとき、土に触れるとき、人は自然と今この瞬間に集中する。患者さんも職員も地域の方も、立場を超えて同じ時間を共有し、共に楽しむことができる。その時間そのものが、心の健康を支える大切な力になっていると感じている。

音楽療法もまた、当院における心のケアの重要な柱である。ホールでの集団セッションや病室での個別セッション、打楽器を使ったドラムサークルなど、さまざまな形で実施している。

また、高岡の伝統工芸の魅力を活か

いる。

こうした音楽やアートの取り組みは、病院や施設の中だけで完結するものではない。地域交流イベントやひかりプロジェクトの活動にも取り入れている。子どもから高齢者まで、障がいの有無や立場を超えて一緒に楽しむことができるため、多世代交流のきっかけにもなっている。

医療の世界では、保険制度や数値化できる成果が重視されることも少なくない。しかし、人が生きる喜びや心の豊かさは数字だけでは測れない。音楽やアート、農活動は、人間が本来持っている感性や創造性を呼び覚まし、人と人とのつながりを生み出してくれる。病気を治すのは最終的には患者さん自身の力であり、医療者はその回復を支える存在である。身体への支援だけでなく、心への支援もまた良質な医療には欠かせない。

病院は病気の人だけの場所ではない。人と人が出会い、つながり、自分らしく生きる力を取り戻す場所でもある。次回、ひかりプロジェクトのもう一つの柱である、ユニバーサル農園「リハビリファーム」について紹介する。土に触れ、作物を育て、自然の循環や命のつながりを感じることが、人の心と地域にどのような力をもたらすのかをお伝えしたい。

（文責 新藤悠子）

した取り組みも行っている。株式会社能作らの協力のもと、おりんや風鈴の澄んだ音色を活用しながら、地域ならではの音文化を楽しむ機会をつくっている。参加者は美しい響きに耳を傾けながら、心安らぐ時間を過ごしている。

私は幼少期に習っていたバイオリンで音楽療法に参加している。実は子どもの頃は人前で演奏することが苦手であったが、「まず職員自身が楽しむ」ことを大切に、続けている。サックス演奏や踊りなど、それぞれの得意分野を活かして参加する職員も多く、多職種で感動の時間を共有している。

音楽には回想法としての効果があり、その時代の歌を聴くことで昔の記憶がよみがえり、涙を流しながら思い出を語ってくださる方もいる。認知症の行動・心理症状が和らぐことも多く、普段は落ち着かない方が音楽療法の時間だけ集中されることも珍しくない。また、普段は見られない表情や新たな一面が現れることもあり、その方をより深く知るきっかけにもなっている。

特に印象的なのがドラムサークルである。患者さんも職員も、車椅子の方でも歩ける方も一つの輪になり、打楽器を即興で演奏する。最初はばらばらだった音が、ファシリテーターの導きによって徐々に一つになり、最後に全員でびたりと音を止めた瞬間には大きな感動が生まれる。言葉がなくても、人は音

でつながることができると実感する瞬間である。

臨床美術を知った最初のきっかけは、子どもと一緒に体験したことであった。臨床美術は認知症の予防や改善を目的として開発されたアートセラピーの一つであるが、現在では子どもから高齢者まで幅広い世代で実践されている。実際に体験してみると、自由に表現することの楽しさに夢中になり、その魅力に引き込まれた。その後、デイケア光ヶ丘でも取り入れることとなった。

臨床美術の素晴らしい点は、上手い下手の評価が一切存在しないことである。私たちは子どもの頃からテストの点数や順位など、さまざまな評価の中で育ってきた。そのため、「絵は苦手」「歌は苦手」と思い込んでいる人も少なくない。

しかし本来、子どもたちは歌うことも描くことも大好きである。評価される前の、その自由な表現こそが人間の原点なのかもしれない。



福井県福井市開発町

かいほつ眼科

眼科

話しやすい環境づくりで、これからもベストな診療を



眼科専門医院として 7月に再スタート

福井市開発町で、長年にわたって地域住民の健康を支えてきた「開発整形外科眼科」が、7月1日、「かいほつ眼科」として再スタートした。「整形外科医で副院長だった父がリタイアし、隣接地に新たに眼科専門のクリニックとして生まれ変わりました」と教えてくれたのは菊地紀子院長だ。

かいほつ眼科は、周囲ののどかな町並みにマッチした和の空間デザインが印象的だ。今まで通っていた人も、新たに来院する人も、落ち着いて過ごせるクリニックになっており、設計士さんには、新しさと古き良きものの魅力が入り混じった空間づくりを実現していただいた。

「眼科には、小さなお子さんからお年寄りの方まで、あらゆる世代の方が訪れます。目の不調に不安を抱えている人もいるかと思いますが、少しでもほっとできる雰囲気の中で、何でも話してもらえればうれしいですね」。

菊地院長はこう話し、症状など診療にかかわることだけでなく、

健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医薬経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



医薬品卸売業

Finese 株式会社 ファイネス

[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

長くサポートできる 地域医療の道に魅力

患者にとつて、現時点でのベストな診療を――。開発整形外科眼科からかいほつ眼科とクリニックの名称は変わっても、菊地院長の医療と向き合う姿勢に変化はない。そんな意識が培われたのは、研修医時代のことだ。

「指導を仰いだ当時の教授に言われ印象に残っている言葉があります。『患者を親だと思い、選択しなさい』と。医師にとつて診療は毎日のことですが、決して気を抜いてはいけないうと、肝に銘じています」。

菊地院長はこう言葉に力を込め、眼科医として医師人生を歩んできた。30代半ばまでは大学病院をはじめ地域の核となる医療機

関に勤務し、多岐にわたる手術を担当。2015年に地元福井市に戻ってからは、父とともに地域住民の診療に全力を傾けてきた。「基幹病院とクリニック、同じ眼科領域でも仕事内容は異なります。かつては、自分自身の手で治療できることに喜びを感じていました。外来診療が中心の今は、世代を超えて通ってくれるご家族も少なくなく、長くお付き合いできる環境に魅力を感じています」(菊地院長)。これからも患者と対話を重ね、ベストな診療は何かを探し続けていく考えだ。

かいほつ眼科 院長 菊地 紀子

〔略歴〕
2003年 福井医科大学医学部 卒業
2003年 福井医科大学医学部眼科入局、
福井医科大学医学部附属病院眼科に勤務
2006年 洛和会音羽病院眼科
2015年 開発整形外科眼科 院長
2026年 かいほつ眼科 開院

地域の笑顔と共に歩む。

医療と農、音楽、アートなどを融合させた
リハビリテーションが注目されている。
心身機能の回復と患者や家族、地域の人たちが
一緒に楽しみながら笑顔になる。
光ヶ丘病院発のリハビリファームが、
地域に新しい風を起こしている。

医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院

車椅子でも草むしりができる

「リハビリファーム」をご存知だろうか？

富山県高岡市の光ヶ丘病院にある、車椅子でも杖でも関われる農園である。日常では、患者さんがリハビリ訓練やリフレッシュなどに利用し、心身の機能回復を目指している。また、定期的に医療・介護を軸に、農（園芸）や音楽、アートなどを融合させたイベントを開催し、地域交流の場となっている。2022年5月に、このリハビリファームは誕生し、着実に成果を上げている。

農活動を通じてリハビリテーションや社会復帰を支援する取り組みは近年、全国的に注目されているが、光ヶ丘病院のリハビリファームは、農業だけではなく、複数の手法を組み合わせ、実施しているところに独自性がある。

「子どもから高齢者、障がいのある、なしにかかわらず、みなさんが繋がる場所として作ったのが始まりです。患者さんだけではなく、ご家族やスタッフ、ボランティア、地域のみなさんが『農』を通じて、生き生きと居心地良くなりが持てて、なおかつ関わる人すべてが心も体も元気になっていく。そんな憩いのガーデンのようなファームをめざしています」

そう強調するのは、リハビリテーション科専門医で、理事長補佐でもある新藤悠子医師だ。病院に隣接する農園には、県内外から視察に訪

医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院
理事長補佐・リハビリテーション科専門医

新藤 悠子



れる人も少なくない。ユニバーサル農園の特徴を備えており、なかでも目を引くのが、車椅子や立ったままでも作業ができるレイズドベッド農法だ。木材で地面の上に枠をつくり、その中に土を高めに盛り上げて野菜やハーブを栽培する。

「高さがあるところで野菜を栽培するので、車椅子の人でも手が届きます。地べたの農作業は難しくても、レイズドベッドの農作業なら車椅子のままでもできます。自宅で普通に畑をしてきた人は皆さんお上手です。農業経験のある患者さんは、畑で野菜の手入れや草刈りの仕方を逆にスタッフに教えたり。今までのリハビリだけだとなかなか自己表現できなかった人が、園芸をするようになって自分の役割を任せられると、スタッフに何かを尋ねたり、コミュニケーションが増えて、生き生きされた方が多くいらっしゃいます」

農園の特徴には、他にも段ボールを利用した環境再生型農法や、農薬を使わない自然栽培、スタッフがつくったメダカや金魚など様々な生物が住むビオトープなどがあり、子どもから高齢者、地域の人たちが一緒になって楽しめる環境が整備されている。

音楽とアートのチカラ

光ヶ丘病院では、2020年から「病院は病

気の人だけのものではない。地域みんなで行きあげ、盛り上げていく」をコンセプトに「ひかりプロジェクト」を展開している。光ヶ丘病院を中心に、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、誰もが心地よくつながる場所の提供や、高岡市内の企業・店舗と連携して地元を元気にすることをめざす活動だ。

その一環として、リハビリファームに先駆けて、臨床美術や音楽療法を導入している。音楽やアートの力を借りて、五感を刺激し、脳を活性化し、心身の機能回復や意欲向上などにつながる試みだ。自らもバイオリン奏者として参加する新藤悠子医師が、意外な効果を打ち明ける。「私自身、人前で弾くのは苦手でした。しかし、上手い下手は関係なく、職員も積極的に参加して楽しむことを実践するために、自らバイオリンで参加することにしました。今では、患者さんと一緒に今を楽しんでいます。患者さんの中には、音楽を聴いて昔を思い出して涙を流したり、若い頃の自分に帰る方がいらっしゃる。美術についても、最初は絵が苦手だからと敬遠する人もいますが、上手い下手は関係なく、評価しないことがコンセプトです。臨床美術士さんに従って進めていると、いつの間にか作品が出来上がります。鑑賞会では、一人ひとりの作品を並べて、これは素敵だとか、きれいなとか、ポジティブな言葉でその作品を表現されると、言われた本人も喜び、一体感が生まれ



ます。リハビリなどにはあまり意欲的でないのに、美術の時間だけは参加する患者さんもあり、みなさんの心の変化や自分らしさを取り戻す貴重な場になっています」

ひかりプロジェクトは、実施から6年を経て、いまや音楽、アート、農活動、他分野と連携した多彩なイベントの定期的な開催など、地域を巻き込んだコミュニティへと発展しつつある。高岡銅器の製作体験や国宝瑞龍寺でのヒカリズム（音楽シンポジウム）、郷土食体験、マルシェなど、地元企業や店舗とのコラボレーションはじめ、光ヶ丘病院さくらまつりと題して、バラエティに富んだ音楽ステージや多種多様なワークショップを開催するなど、地域の誰もが心地よくつながる場になっている。

高岡銅器の癒しの音を使って、医療や介護、リハビリ、予防医学に活用する取り組みも行っている。オリジナル曲の制作や地域向けイベントでの演奏、CD制作などを通じて高岡の魅力を県内外に発信するなど、医療と地元産業とのコラボレーションとしても高く評価されている。

回復期リハビリ病院が少ない

それにしても、なぜこうした地域を巻き込んださまざまな活動に力を注ぐのだろうか？

その詳細に触れる前に、まずは病院の沿革をざっと振り返っておこう。光ヶ丘病院の開設は、

今から45年前の1981年（昭和56年）。創設者は、笠島學・院長の父で、内科医だった。開設からほどなくして237床の病院に拡大、その後、1990年（平成2年）に介護老人保健施設を開設し、リハビリテーションや訪問看護、訪問介護にも力を入れた。1993年（平成5年）には、人間ドック棟を開設するなど今日につながる基盤を築く。

しかし無念にも1995年（平成7年）に末期がんで死去。1996年（平成8年）から、長男である現院長が経営を引き継いだ。院長は、それから2年かけて老朽化した既存病棟の改修と、新たに新病棟を完成させると、一つの方針を打ち出す。笠島院長が振り返る。

「それまで急性期や回復期を問わず外来や入院患者を受け入れていたのですが、急性期治療は近隣の公的に病院に任せし、当院は急性期治療を終えたあとの慢性期医療や在宅医療、予防医療に着目したのです。2000年の介護保険のスタートとともに、ケアマネジャー試験に40名が合格、介護老人保健施設やケアハウス、地域包括ケアセンター、有料老人ホームなどを開設し、医療と介護福祉を軸にした病院へと転換を図ったわけです」

それ以後、医療が必要な認知症やベッド上臥床の重症患者を多く受け入れると共に、一方で特殊疾患療養病棟や、2018年には介護医療院の開設にも踏み切り、地域の病院や開業医と

連携しながら存在価値を高めていく。

さらに「富山県呉西地区には、脳卒中や骨折後の集中的なりハビリ訓練を行う、回復期リハビリテーション病院が少ない」（笠島院長）ため、回復期リハビリテーション病棟を立ち上げ、地域多機能病院となることで、近隣の病院、開業医との病診連携がより深まると考えたのである。

同じ頃、笠島院長の長女である新藤悠子医師と、夫で現副院長の新藤恵一郎医師が、後継者として高岡市に戻る決意をする。

リハビリテーション科専門医

二人は、同じ大学（慶應義塾大学医学部）の医局で知り合い、結婚。共にリハビリテーション科専門医だが、選んだきっかけはそれぞれ異なる。

悠子医師は、富山大学医学部出身で、医学部4年終了後1年間休学し、アメリカ・ニューヨークに渡った。「現地でデイサービスのような場所でボランティアを経験、そのときに音楽療法やリハビリテーションと出会い、興味をもった」という。日本でリハビリテーション科専門医になれる道を模索、慶應義

塾大学医学部リハビリテーション医学教室の存在を知り、門を叩いた。

一方、恵一郎副院長は東京都出身。リハビリテーション科専門医をめざすにあたっては、幼少期の体験が大きく影響している。

「3歳の時に、左の大腿骨を骨折してね。垂直牽引といって天井から足を吊るして1カ月入院、それがとれた後ギプスで1カ月固定しました。脚の関節が固くなり、関節可動域訓練を受けたのですが、とても痛くてつらかった思い出があります。その翌年、今度は右の大腿骨を骨折するのです。同じようにまた垂直牽引で入院、ギプス固定、厳しいリハビリを経験しました。幼少期の二度にわたる入院体験は、のちの人生に大きな影響がありました。ただ医学部に入ってすぐに今の道に進んだわけではありません。いろんな講座や実習を受けて何科にするか考えていた時に、2歳下の弟が先に理学療法士になると専門学校に進んだ。母校の慶應義塾大学には、リハビリテーション科の講座が確立されていました。幼少期、リハビリがたらくて、家の押し入れに隠れてボイコットしたことが何度もあります。そういう体験を活かせ

るかもしれないと思いました」

結婚後、恵一郎医師と悠子医師は2年間、デンマークに研究留学。帰国してから非常勤として月1〜2回光ヶ丘病院に通った。そして2020年、正式に光ヶ丘病院へ家族とともに移転する。

「ちょうど世の中がコロナ禍のときで、病院は感染対策などもあつて全体的に暗い印象が漂っていました。そのイメージを一新したくて、アートセラピーの臨床美術、音楽療法、園芸療法などさまざまなことに取り組みました。そうした活動がつながっていきました」（悠子医師）

リハビリの先に暮らしがある

ひかりプロジェクトやリハビリファーム、さくらまつりといった地域を巻き込んだ活動と共に、2023年にはリハビリテーション室を全面改装した。

多彩なりハビリテーション機器なども数多く取り揃え、病棟も車椅子で利用しやすいように大幅に改装し、リハビリテーション科専門医が常駐する回復期リハビリテーション機能を有する病院へと生まれ変わるのだ。ひかりプロジェクトなど一連の活動について、恵

一郎副院長はどう評価しているのだろうか？

「リハビリ対象の疾患は、整形や脳、循環器などいろいろあります。その中で、たとえば脳卒中による運動麻痺が完治するかといえはなかなか難しいのが現実です。それでも自宅退院から社会復帰をめざしリハビリは続きます。

その過程で思うようにならない苛立ちや精神的な落ち込み、鬱の感情に陥ることも少なくありません。機能回復訓練だけでは埋められない、心の痛み、苦しみがあるのです。そんな時に、自分という個性を輝かせてくれる。そういう場所や出会いがあると、ご本人もご家族も安心できるはずです。ひかりプロジェクトはそういう場所になっていると思います。リハビリは、ある期間だけで終わるものではありません。急性期、回復期、生活期とずっと続いていきます。その先に暮らしがあるのです。そのための整備を含めて、もつと地域の人たちの頼れる場所でありたいと思っています」

自分や家族、地域の人が自然に笑顔になれる場所。光ヶ丘病院には、地域を元気にする新しい風が流れている。



新藤 恵一郎

医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院
副院長・リハビリテーション科専門医

きれいにしたい。 あしたのために。

地域の医療を支えるすべての方へ
私たちは「きれいのパートナー」として、
より良い環境づくりに貢献します。



株式会社 サニクリーン北陸

〒921-8014 石川県金沢市糸田2-5
TEL.076-225-3290(代表)

サニクリーン北陸 取り扱いサービス

法人向けクリーニンググッズレンタル・販売／
プロのクリーニングサービス／オートライフ事業

●WEBサイト

サニクリーン北陸

検索

www.sanikleen.co.jp/hokuriku/



ISHIN column vol.3

医療DXで、本当に変えたいもの

— 医師事務作業補助者が
現場で見てきたこと —

第2回では、教育や医療DXが重要でありながら、日々の忙しさの中で後回しになってしまう現状についてお伝えしました。

その後、日本医師事務作業補助者協会の会員を対象に、医療DXに関するアンケートを実施しました。生成AIや音声入力、AI問診、RPAなど多くの医療機関で導入の検討が進められており、「医療DXを進めたい」という意識は想像以上に高いことが分かりました。

一方で、「思うように進まない」という声も数多く寄せられました。理由として挙げられたのは、「時間が足りない」「予算がない」「詳しい人がいない」「成功事例が分からない」といったものです。どれも現場にとって切実な課題です。しかし、アンケート結果を読みながら、私はもう一つ大きな壁があるように感じました。

それは、導入した先の未来が見えに

くいことです。

たとえば、「生成AIを導入すれば文書作成が効率化します」と説明されても、それだけではなかなか導入に踏み切ることができません。導入にあたって必要なのは、「何分短縮できるのか」だけではなく、「短縮して生まれた時間で何ができるようになるのか」ではないでしょうか。

さらに、DXには「今までのやり方を変える」という負担もあります。新しいシステムを覚え、院内へ定着させるには時間も労力も必要です。一時的には、かえって忙しくなることもあるでしょう。人は変化そのものを嫌うのではなく、変化した先にどんな価値があるのかが分からないことに不安を感じるのだと思います。

だからこそ、医療DXで本当に考えるべきことは、「どのAIを導入するか」ではなく、「AIによって生まれた時間をどう使うか」なのではないでしょ

うか。

たとえば、AIによって一日に30分の時間が生まれたとします。その時間で、より多くの患者さんを診察するという選択もあります。教育に充てることもできます。医療安全について話し合うことも、多職種で症例を振り返り診療の質を高めることもできるでしょう。もちろん、医療従事者が少しだけでも心に余裕を持つて働ける環境づくりにつながることも大切です。

それが正解ということではありません。病院によって課題は違います。だからこそ、生まれた時間の使い方も違って当然です。大切なのは、それぞれの医療機関が、自分たちの課題や目指す医療に合わせて、生まれた時間をどう活用するかを考えることです。

私は、この「時間をデザインする」という視点こそ、これからの医療DXに最も必要なのではないかと考えています。そして、その時間をどう活用すれば

医療の質が高まるのかを一緒に考え、提案できる人材が、これからますます重要になるのではないのでしょうか。

医療DXとは、デジタル技術を導入して終わりということではなく、効率化することがゴールということでもないと考えています。生まれた時間をどう使うか。その時間を患者さんのために、医療従事者のために、そして未来の医療のために、どう価値へと変えていくのか。私は、その問いを持ち続けることが、これからの医療DXにとって最も大切なのではないかと感じており、医師事務作業補助者が「業務を代行する人材」から、「生まれた時間を価値へ変えることを一緒に考えられる人材」へと成していけるよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。

(第4回につづく)



日本医師事務作業補助者協会

理事長 矢口 智子

「医療と DX、そして豊かな暮らしの融合」をテーマに特別イベントを開催

2026年6月26日（金）、三谷産業コンストラクションズ株式会社 sosū select showroom にて、「スペシャルコラボレーショントーク VOL.1 金沢大学 金子特任教授・株式会社医心 医療と DX、そして豊かな暮らしの融合」を開催しました。

当日は、世界保健機関（WHO）協力センター長も務める、金沢大学附属病院 特任教授の金子周一特任教授をお迎えし、「医療と DX」をテーマにご講演いただきました。AI やデジタル技術の進化が医療にもたらす変化や、その先にある私たちの心地よい暮らしの未来について、優しく分かりやすくお話いただきました。

続くトークセッションでは、三谷産業コンストラクションズ株式会社 代表取締役社長 土田和宏氏を交え、「DX によって生み出される時間を、どのように豊かな暮らしへとつなげていくか」をテーマに語り合いました。医療の進歩によって生まれる“ゆとり”を、家族との時間や自分自身を大切にする時間へ。参加者の皆さまにとっても、これからの暮らしについて改めて考えるきっかけとなったようでした。

イベント後半にはハイアット セントリック金沢によるケータリングを楽しみながら懇親会とショールーム内覧会を開催。美しく彩られた料理を囲みながら自然と会話が弾み、参加者同士の笑顔があふれる交流の輪が広がりました。また、上質な住空間や設備を実際にご体感いただくことで、日々の暮らしをより豊かにするヒントに触れていただく機会となりました。

当日は、35 名の皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終了しました。



医療・介護の経営に、 止めない省エネ DX を。

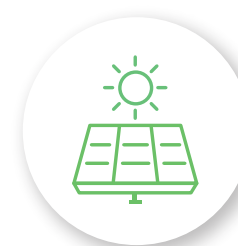
ムダを減らし、現場を支え、未来をつくる。

鈴電が、ワンストップでサポートします。



空調デマンド制御

電気料金を削減



太陽光発電導入

自家消費でコスト削減



省エネ電気工事

設備更新で効率改善



AI・DX導入支援

業務効率と人手不足を解決

まずは現状のご確認から。

施設ごとの課題に合わせて、最適な改善プランをご提案します。

株式会社 鈴電

TEL : 058-248-3551

<https://www.suzuden.co.jp>



本 社

〒500-8234 岐阜市茅島3-5-2

石川営業所

〒924-0802 石川県白山市専福寺町142-2

変わりゆく医療を あなたとともに。

取材にご協力していただきました医療者の方々、ご協賛していただきました企業様に心より感謝申し上げます。

また、医療情報誌 医心「ISHIN」では私たちの活動にご賛同いただけるスポンサーを募っています。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局
スギメディカル株式会社
株式会社 DCP ソリューション
株式会社 石川コンピュータ・センター
みづほ工業株式会社
株式会社 ファイネス
株式会社 アメニティ
丸文通商株式会社
三谷産業コンストラクションズ株式会社
株式会社 玉家建設
株式会社 サニクリーン北陸
株式会社 イーピーエム・グループ
株式会社 北國銀行
株式会社 鈴電
株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚
株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス

ISHIN



DLT 木造仮設住宅（珠洲） 設計：坂茂建築設計 施工：株式会社 家元

北陸の暮らしに寄り添う家づくり 地域と共に歩む住宅会社です。

私たち株式会社家元は北陸を中心に、
地域の風土と家族の暮らしに根ざした住宅をつくり続けてきました。
令和6年能登半島地震では、被災された方々への仮設住宅提供、応急復旧支援、
物資の集積及び現地支援など多角的な復興活動を展開。
これからの暮らしを、地域の皆さまと共に築いてまいります。



グッドデザイン賞 2025「大賞」
内閣総理大臣賞受賞



美しい人になる
家元の家。

医療をデザインする株式会社医心

ISHIN

business description

各種印刷

WEB制作

デザイン

企画・編集

取材業務

撮影（写真・動画）、編集作業

出版（雑誌、記念誌など）

セミナー・イベント企画・運営

医療学会の企画・運営

テレビ番組企画・編集・制作

広報コンサルティング業務

医療ブランディング

クリニック開業支援

株式会社 医心

〒920-0213 金沢市大河端町東55番3号 tel: 076-203-6613

email: info@project-ishin.net

<https://project-ishin.net/>



「建物の主治医としての自覚」

— これが、みづほのこだわりです。

金澤オーラルケアクリニック 様



外観



受付・待合室



カウンセリングルーム



消毒室



診察・オペ室



外観

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に
医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病医院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いができればと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和8年8月29日(土)・30日(日)
10:00~17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。

木造建築の新しい選択肢「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

新しい建設サービス業の展開
mizuho みづほ工業株式会社

本社/〒921-8864 金沢市八日市5丁目5番2地 TEL. 076-248-7000(代) ホームページ/ <https://www.mizuho-co.com>

建築コストの削減	建築工期の短縮
高い耐震性と耐久性	建物の軽量化
設計自由度の高さ	大空間の木造建築



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院
金沢医科大学病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
石川県立こころの病院
加賀市医療センター
公立河北中央病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
公立つるぎ病院
公立能登総合病院
公立羽咋病院
公立松任石川中央病院
国民健康保険 小松市民病院
市立輪島病院
珠洲市総合病院
町立富来病院
能美市立病院

石川県済生会金沢病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院
金沢聖霊総合病院
金沢赤十字病院
独立行政法人国立病院機構 医王病院
独立行政法人国立病院機構 石川病院
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
独立行政法人国立病院機構 七尾病院
社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川
心臓血管センター金沢循環器病院
医療法人社団浅ノ川 千木病院
医療法人社団光仁会 木島病院
医療法人社団慈豊会 久藤総合病院
医療法人社団 下崎整形外科医院
医療法人社団橋会 整形外科米澤病院

医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
医療法人社団博友会 金沢西病院
医療法人社団藤聖会
金沢メディカルステーション ヴィーク
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
小松ソフィア病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
特定医療法人社団勝木会
やわたメディカルセンター
公益社団法人 石川勤労者医療協会
城北病院
医療法人社団博仁会 小池病院

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
高岡市民病院
市立砺波総合病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院

福井県

福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血管圧センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





スギ薬局



私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需



地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店



コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・
北海道・東北に出店エリア拡大中!

グループ合計

(2024年
6月末現在)
1,760店舗

関西 581店

北陸・信州 84店

北海道・東北 3店

関東 502店

中部 590店

■ 全社
売上高 **7,444.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 調剤
売上高 **1,587.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 処方箋
枚数 **1,475.9** 万枚 前期比 +14.3%
(年間計)

■ 訪問調剤
対応店舗数 **601** 店舗 前期比 +6.4%
(年間計)

■ 訪問調剤
患者数 **189,109** 名 前期比 +7.4%
(年間計)

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索

〒474-0011 愛知県大府市横根町新江62番地の1 TEL 0562-45-2700